

第52号
2022年11月

高梁市議会だより



9月定例会
決算審査

アフター
コロナ
目指して

バス発車

空港吹屋直行バス実証実験を議論

アフターコロナ目指して

バス発車

岡山桃太郎空港～吹屋の直行バス実証運行を議論

7月22日午前9時、吹屋ふるさと村の絵柄でラッピングされた大型観光バスが、岡山桃太郎空港を出発しました。拠点となる空港や駅と観光地を結ぶ二次交通の整備は、本市の観光施策の課題となつております。バスの実証運行が行われています。旧吹屋小学校校舎保存修理工事が完了し、外国人観光客の入国制限が緩和され、インバウンドの復調も見込まれる中で、本市の観光へのインパクトが期待されています。

「空港～高梁直行バス運行事業」は、令和4年度の新規事業で、首都圏からの誘客やインバウンドに向け、岡山桃太郎空港から備中高梁駅を経由して吹屋地区へ直行バスの運行を行う事業です。国庫補助550万円、市の一般財源から550万円、合計11100万円の予算が組まれています。

運行期間は、7月22日から11月20日までの金、土、日、祝日。

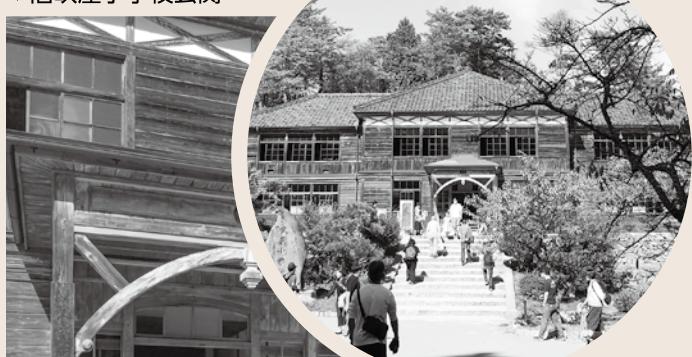
45人乗りバスが1日1往復しています。7月22日から8月20日まで40回運行した結果は

延べ243人が利用、1運行当たり6・2人となりました。このような結果を踏まえて、

9月定例会の一般質問では、5名の議員が様々な観点から質問を行い、バスの実証運行を題材に、市の観光施策の方針性を探る議論となりました。

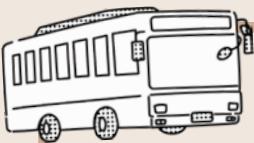
▶旧吹屋小学校

▼旧吹屋小学校玄関



▲吹屋の町並み





周知・準備

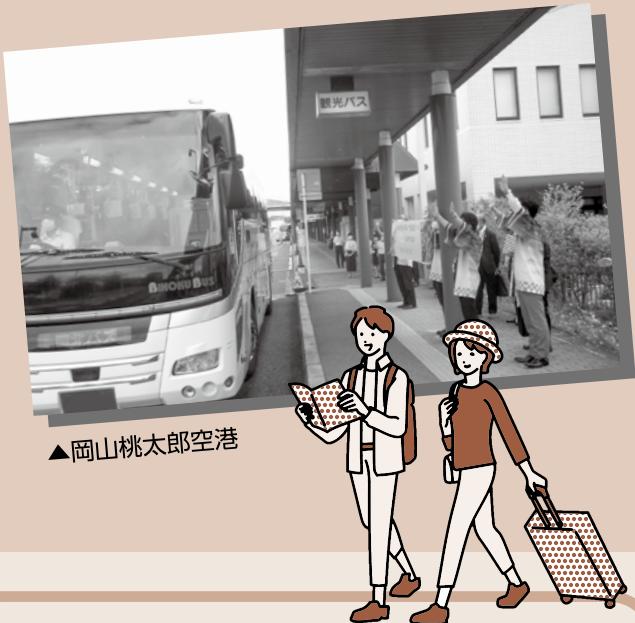
利用客が少ないのは、運行開始までの準備不足が原因ではないかとの質問もありました。執行部からは、予算が成立して以降、関係機関との調整を行つており、夏休みなどデステイネーションキャンペーンの需要を少しでも取り入れたいため、当初計画より前倒しで実施日を早めた。見切り発車のような形になつたことは否めない。すでにホームページやバナー広告、空港や駅での広報活動を進めていたとの答弁がありました。

費用対効果

45人乗りバスに平均6・2人しか乗車していないことから、費用対効果を問う質問が相次ぎました。執行部からは新型コロナウイルス感染症がまん延している時期であることから、当初から1運行当たり5人、運行期間全体でも延べ400人の乗車を想定していること、車両を小型化しても運行経費の削減にはあまり影響はない、むしろ吹屋ふるさと村でラッピングされた大型バスの運行による宣伝効果が見込まれるとの答弁がありました。

サービス・おもてなし

実際に乗車した議員からは、空港から吹屋までの2時間の乗車時間の観光案内やパンフレットの情報不足、備中高梁駅での電車との接続、高梁市図書館やトイレの案内、吹屋到着時のおもてなしの不足を指摘する質問がありました。執行部からは、これまでの利用者の声をバス運行に反映させており、今後も改善を考えていく。また、アンケートの必要性を感じているとの答弁がありました。

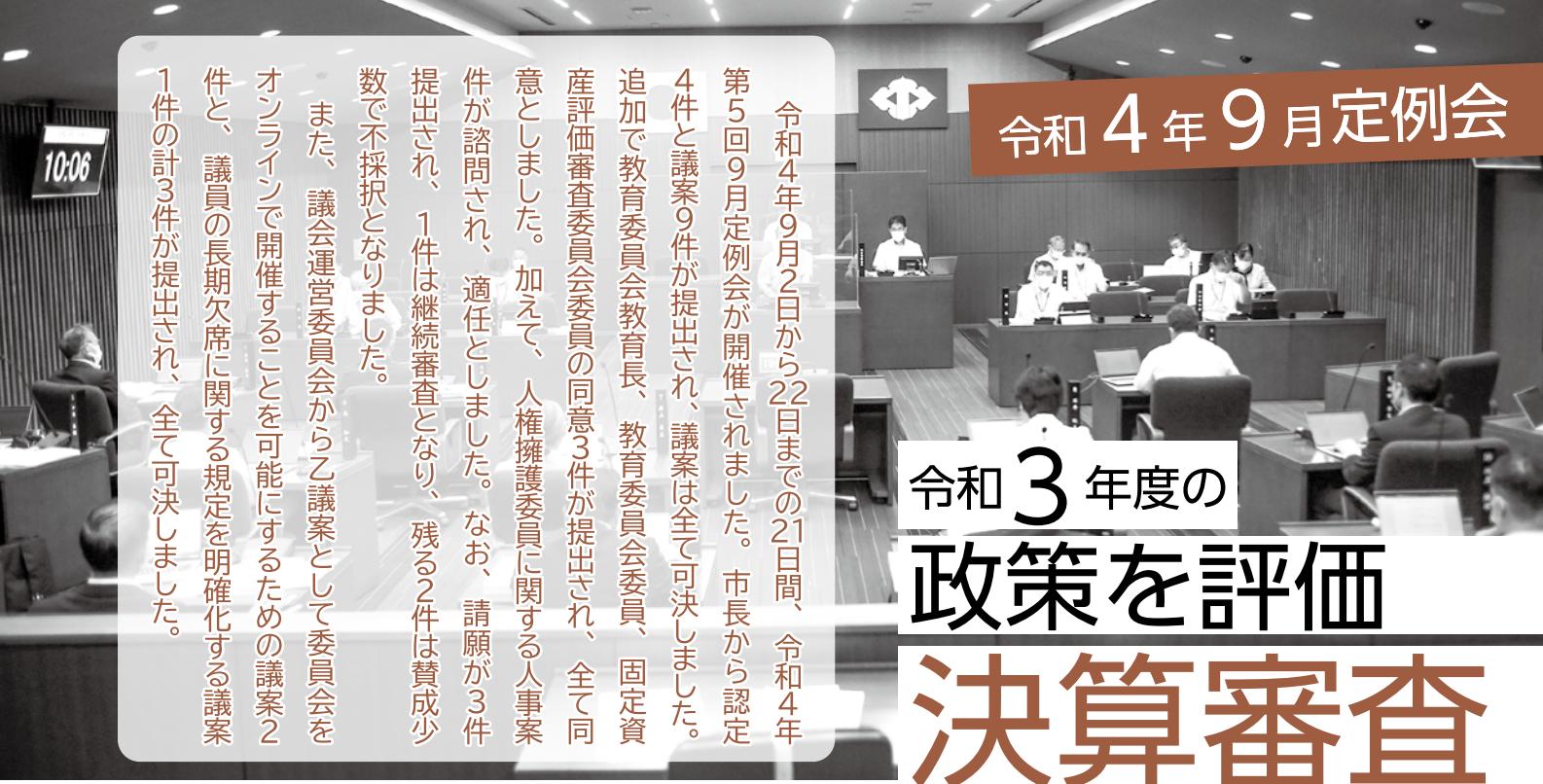


企業人材活用

現在高梁市では企業人材を受け入れていることから、議員からはバスの実証運行や観光施策全般について専門的見地からのアドバイスを受け入れるべきとの提案がありました。執行部からは、本市の足りないところにどう取り組んでいくか、また、行政では難しい誘客や経済効果につなげることについてアドバイスを受ける意向であるとの答弁がありました。

地域連携・広域連携

吹屋地区との連携や、高梁市の観光施策にどう影響するのか、周辺自治体との連携に関する質問もありました。執行部からは、吹屋地区では各種団体の代表者での協議の場を定期的に行つている。市全体の観光に関しては、この実証運行によりこれまで課題とされていた二次交通を確保し、首都圏やインバウンド観光の足掛かりになる。周辺自治体とは他県の事例を参考しながら、県に要望していくとの答弁がありました。



令和3年度の 政策を評価 決算審査

總務文教委員會

順正学園への 環境整備補助金の 経済効果を追究

令和4年9月2日から22日までの21日間、令和4年

4件と議案9件が提出され、議案は全て可決しました。

追加で教育委員会教育長、教育委員会委員、固定資産評価審査委員会委員の同意3件が提出され、全て同意としました。加えて、人権擁護委員に関する人事案件が諮問され、適任としました。なお、請願が3件提出され、1件は継続審査となり、残る2件は賛成少数で不採択となりました。

また、議会運営委員会から乙議案として委員会をオンラインで開催することを可能にするための議案2件と、議員の長期欠席に関する規定を明確化する議案1件の計3件が提出され、全て可決しました。

特に順正学園へのパソコン

「高梁市立幼稚園条例の

査となりました

順正学園への 環境整備補助金の 経済効果を追究	総務文教委員会で審査した 案件は、認定1件、議案6件、 請願1件の計8件であり、1 件は認定、その他の議案は全 員一致で原案のとおり可決す ることに決しました。	「令和3年度高梁市各会計 歳入歳出決算認定について」 (以下「令和3年度決算審査」) というは、ふるやと納税な どの自主財源確保、収税の取 り組み、超過勤務のあり方、 順正学園への補助金、消防署 の職員配置、教育施設の有効 活用や施設管理のあり方など、 多岐にわたり質疑がなされま した。	てのICT環境整備費について は、事業内容や目的、物品購 入先、さらに事業による市へ の経済効果についても質問が 及び、経済的に困窮している 留学生への大学からの要望に 応えた支援であり、市の物品 購入の入札参加業者から購入 され、については学生数減少対 策にもつながり経済効果はあ るとの説明がありました。	また、「口ナ患者搬送の急 増に対応するため、消防西分 駐所から本署への職員の一時 引き揚げが発生していること について」は、県内他市町村に ている専門的消毒作業を臨時 的に委託するという選択肢の 検討の必要性について説明が ありました。	は、高梁幼稚園に高梁南幼稚 園を令和5年度から統合する ことによる職員配置や駐車場 の利便に関する質問があり、 新しい園児数とクラス数、そ れから支援児の数によって職員 配置が決まる」とと駐車場は 現状での利用を含め入園者数 により検討すると説明があり ました。	なお、「少人数学級の拡充 及び教職員定数改善をはかる ための、2023年度政府予 算に係る意見書採択の請願に ついて」は、県内他市町村に おいても審査結果にばらつき があり、もう少し時間をかけ て、じっくりと検討したいとし て継続審査にすべきとの動議 があり、専決動議として採決 した結果、全員一致で継続審
-------------------------------	---	--	--	--	--	---

アフターコロナの 観光施策を議論

9月定例会の産業経済委員会での審査案件は6件ですべて原案通り可決しました。令和3年度決算審査の中、「担い手育成・スマート農業社会実装促進事業」の内容については、規模拡大に必要な機械設備の導入を支援するとされました。

消費活性・集客対策業務委託料の内容については、市内の事業者支援を目的に、1回目は昨年10月に、2回目は本年2月にそれぞれ15日間で実施しました。コロナ禍で打撃を受けた地元経済の立て直しに効果があつたが、高齢者が十分活用できなかつたことが今後の課題であるとされました。また、地域滞在型アドバイザー派遣委託料については、



▲吹屋往来「とと道」の案内

ワクチン接種事業や 2件の請願を審査

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるつている中においても、待ったなしの観光戦略が求められ、高梁市の観光発展のためにも持続的な支援を求めていくことを確認しました。

まことに

の事業者支援を目的に、1回

り不採択となりました。

「医療・介護・保育・福祉な

い、

う、

く、

総合計画1年目 コロナ禍での船出

今定例会では、令和3年度の決算を審査しました。令和3年度は、「健幸都市たかはし」を目標に掲げる新総合計画1年目として様々な事業が実行されました。新型コロナウイルス感染症対策や平成30年7月豪雨災害復旧などもありましたが、一般会計は歳入ベースで過去最高だった令和2年度決算より約13億円少ない、歳入約279億円、歳出約269億円という決算になりました。

決算審査では、市税の不納欠損額をいかに減らすか、ふると納税の確保方法や使い道、合併特例債の発行残額などについて質疑がありました。



財政状況は依然厳しさの中に

より一層の行財政改革を求める

令和3年度は、財政の健全性を見
るための3指標がすべて改善してい
ます。国の補正予算に基づく地方交
付税の追加交付などが影響したもの
であり、依然として厳しい状況であ
ります。特に、財政の硬直化を見る
経常収支比率は、令和2年度には県
内15市中14位だったものが、令和3
年度は最下位になりました。令和4
年度以降、新消防庁舎など新たな大
型事業が予定されていることもあり、
持続的な行政運営のために、一層の
行財政改革が必要になります。

高梁市の財政指標

経常収支比率 91.0%
財政の弾力性を示す指標。70～80%
が理想。100%に近いほど自由に使え
るお金が少ないことを意味する。

実質公債費比率 11.9%
借金の返済額が財政規模に閉める割合。18%以上になると、地方債の発行に総務大臣の許可が必要になる。

14位／岡山県内15市中

新型コロナ対策で 約14億円を執行

学校、福祉、商工業者などへ多彩な支援

令和3年度には、引き続き感染症対策のために、多くの事業が行われました。総額約14億円のうち、多くは「子育て世帯等臨時特別支援事業」、「住民税非課税世帯等臨時特別支援事業」や「ワクチン接種事業」の費用です。そのほか、「修学旅行キャンセル料保護者負担軽減事業」など高梁市が独自に行つた支援策もあります。

高梁市独自の新型コロナ対策事業	
地域人材育成事業 (Webデザイナー育成事業)	1314万5000円
無料抗原定性検査事業	279万6000円
修学旅行キャンセル料保護者負担軽減事業	53万3000円
図書館空間創出事業	176万5000円
新型コロナウイルスワクチン接種移動支援事業	370万7000円
指定管理施設事業継続支援金	2689万9000円

事業費高騰の現在、試算は妥当か？

合併特例債の発行残高は約60億円

令和3年度末の県内他市の
合併特例債発行率

	ハード事業	ソフト事業
高梁市	65.63%	99.87%
岡山市	93.16%	100%
倉敷市	99.86%	100%
津山市	98.60%	100%
井原市	60.34%	99.96%
総社市	69.35%	100%
新見市	99.58%	100%
備前市	78.01%	79.93%
瀬戸内市	69.05%	100%
赤磐市	65.91%	100%
真庭市	41.86%	80%
美作市	49.18%	99.92%
浅口市	36.85%	99.99%

事業費が高騰している中で、あるという答弁がありまし

た。

終的な発行率は88%程度になる見込みです。

高梁認定こども園、有漢義務教育学校の3つで約40億円が必要とされており、最

高梁市の合併特例債は借りられる限度額が約174億円で、令和3年度末までに約114億円を発行しています。今後、新消防庁舎、

市町村が合併した後に必要

となる事業のために、新市建設

計画に基づいて借り入れること

ができる地方債の一一種です。

事業費全体の95%まで借り入れで

き、元利償還金の70%は、地方

交付税として国が負担する有利

な財源です。発行できる総額は、

合併した自治体の人口などから

上限が設定されています。

合併特例債ってどんなもの？

地方公共団体の借金を地方債といいます。発行するには議会の議決が必要です。合併特例債は、市町村が合併した後に必要な事業のために、新市建設計画に基づいて借り入れることができます。なる事業の一一種です。事業費全体の95%まで借り入れができる地方債の一一種です。事業費が高騰している中で、あるという質問に対しても、事業費を見直す可能性はあるという答弁がありました。

※元利償還金 借りたお金とそれに対する利子を合わせて支払う金額

反対討論

石部 誠議員

2つの議案に反対の立場から討論する。歳入歳出決算認定は、行革により引き上げされた各種利用料が含まれ、町内会や各種団体を支える諸制度は削減される反面、特定の企業や団体、指定管理先などの委託料や補助金は優先されており反対する。特に今年度の吉備国際大学への入学奨励金は、生徒減で約1900万円不要になった。しかしほぼ同額が留学生のパソコン100台の購入に充てられた。これは目的外使用であり、大学支援1億円を優先した結果で問題がある。併せて大学留学生が国保税を未払いのまま卒業し、徴収できない国民健康保険税が不納欠損となつている。昨年度の不納欠損の半数が留学生であり、欠損金は他の国保加入者が負担せねばならない。この状況が毎年続くことは制度設計上の問題がある。また国保税

の基金積立が5億8千万円あるが国保税の引下げに使うべき。

幼稚園条例の改正に反対する。高梁南幼稚園の閉園について、幼稚園や保育園は、そもそも身近な生活圏内にあるべき。計画されている認定子ども園の開園は2年後であり、物価上昇など、計画の見直しも考えられ閉園のみを急ぐべきではない。

請願第2号・第3号については、医療や福祉の社会環境や労働状況を改善するのは急務と考え採択すべきである。

賛成討論

金尾 恭士 議員

今定例会に上程された全ての議案に賛成する。歳入歳出決算認定について、市税のうち自主財源の問題は喫緊の課題である。地方交付税も国の状況もあり不明な部分もある。実質公債比率は昨年より若干改善されているが、高い比率を示している状況であ

める、緊張感をもつて予算執行を行つていただくように要請し、PDC Aサイクルの構築を求める。

吉備国際大学への学習環境整備補助金1800万円については総務文教委員会でも地元業者の活用について質疑があつたが、今後とも市としてより一層地元業者の活用を行つていただき、地域経済の発展の一助にすべきである。

農業関連では当初予算に計上されながら予算執行されていかつたり、重要施策でありながら不用額が多額になる案件がある。市民・農業者に寄り添い、意見を吸い上げた予算執行を求める。西山辺地にかかる総合整備計画については、風致園の整備となるが、議案質疑で判明したのは、主に隣接する旧西山小学校のプール撤去、駐車場整備であり、今後の議案において疑義を招かないためにも、正確な記述と予算執行を強く求める。

9月定例会で賛否が分かれた議案の採決結果

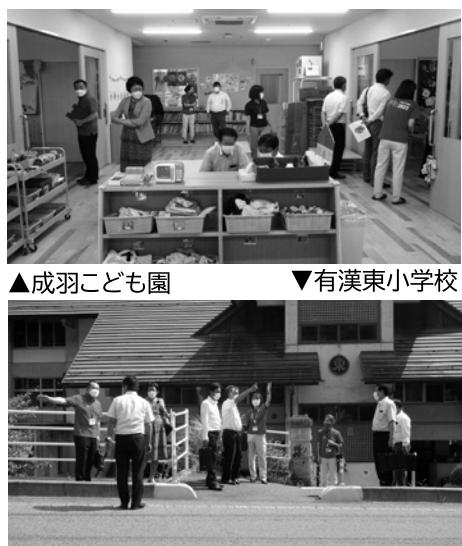
○: 賛成 ●: 反対 欠: 欠席

議案番号	件 名	金尾	平松	新倉	伊藤	森	森上	石井	石田	石部	三村	宮田好	小林	倉野	川上博	川上修	大月
認定第1号	令和3年度高梁市各会計歳入歳出決算認定について	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第68号	高梁市立幼稚園条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○
請願第2号	精神保健医療福祉の改善に関する請願	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●	●	●	●
請願第3号	医療・介護・保育・福祉などの職場で働くすべての労働者の大幅賃上げを求める請願	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	●	●	●	●

※議長は採決には加わりません。※他の議案は全会一致で可決しました。

開園から4年目となる成羽こども園などを視察

成羽こども園では、併設している成羽長寿園との交流や緊急時に備えての訓練体制、就学前教育の現状などについて質問しました。成羽長寿園との交流は、「コロナ禍でもできる事を工夫して実施しており、今後は職員間の交流も行いながら、合同避難訓練なども実施していくとの回答がありました。また、近年0歳児保育や土曜保育の一ีづが高まっています。午後からの有漢東小学校では、有漢西小学校との統合後の児童の様子や他自治体の義務教育学校の状況、教科担任制や陰山メソッドの取り組みなどが質問されました。こども園で



▲成羽こども園

▼有漢東小学校

義務教育学校へ向けて、教科担任制はこれから検討していく。陰山メソッドの取り組みも順調にスタートできたとの報告を受けました。校内視察後はスクールバスの乗降場と旧有漢西小学校校舎を視察、取り壊し後の活用に対して意見交換を行いました。

一緒にだつたこともあり、児童間での壁は感じられない。

▶

成羽こども園の給食を
いただきました



所管事務調査

産業経済委員会

25年が経過し大規模改修を予定高梁国際ホテルについて調査

7月14日に、副市長、産業経済部長ら出席のもと、高梁国際ホテルの建物等賃貸借契約満了に係る進捗状況について所管事務調査を行いました。内容は、高梁国際ホテルの賃貸借契約満了、25年が経過したホテルの大規模改修の財源、経営計画の内容についてです。

調査の結果、賃貸借契約は、りました。

高梁国際ホテルは、高梁市の観光などになくてはならない財産であり、市は、市民にしっかりと説明責任を果たし、今後とも議会で論議を行うべき

と考へています。



▲高梁国際ホテル

一般質問 ココを聞きました!

宮田好夫	公共交通について 市民の憩いの場について	石田芳生	観光施策について 市職員の人材確保、人材育成の取組について
石部 誠	旧統一教会と高梁市の関係及び今後の対応について 新型コロナウイルス感染症対策について 高梁川流域治水と新成羽川ダムの放流について	川上博司	防災、減災対策について 財政計画について
森 和之	落合雨水ポンプ場と防災について 特産品の可能性について 備中たかはし松山踊りについて 市内在住の外国人について	金尾恭士	令和5年度からの中学校部活動の地域移行について 新消防庁舎の建設について 川上町仁賀地域の旧農業施設による環境汚染について 空港吹屋直行バスの運行について 子育て対策について 公務員の定年延長について 地方創生臨時交付金について
三村靖行	空港吹屋直行バスについて 建設工事に関する事業要望書への対応について 有害鳥獣対策について	平松久幸	スポーツ振興について 定住対策について 空港吹屋直行バスの運行について 買物弱者について 自治体 DX 推進について
伊藤泰樹	教育について 公共施設等総合管理計画について 高梁プロモーション部（仮称）について		
森上昌生	空港吹屋直行バスについて 備中たかはし松山踊りについて 野良猫対策について		

市民の移動手段の確保は市の責務だ
宮田 好夫 議員
新規路線を求める声もある。バスやタクシーには多くの労働者もいる。計画ありきではなく柔軟な対応を求める。



宮田 高梁市の公共交通サービスを今後どのように改善するのか。
市民生活部長 路線バス、生活福祉バスの見直し基準を定めていて利用を促しても利用が伸びない路線は最終的に路線の縮小も検討される。
宮田 第2次公共交通網形成計画は補助金削減の要素が強い。市民の移動手段を確保するのが市の責務ではないか。
市民生活部長 計画では補助金削減を掲げているが、市民の利用に即した公共交通を維持し、市民の移動手段を確保することが必要であり慎重に検討していく。

宮田 市民から時刻表の見直しや方谷林公園の整備について
が開いている。市民の憩いの場でや山田方谷の碑があるが木が茂つて展望が悪い。トイレの壁にも穴があり整備すべきではないか。
産業経済部長 枝木の伐採などは数年に1回行っていたが最近できていない。予算を確保して適切に対応したい。

これからの公共交通について



中国電力とホットラインの構築を

市と旧統一教会の関係を問う



石部 誠 議員

石部 旧統一教会の関連事業に高梁市後援があつたが事実関係は。また後援・募金・懸垂幕・激励金なども基準はあるのか。

政策監 昨年8月に後援申請があり、関連団体と認識できず後援を行つた。今後は活動内容が分かる申請も求める。後援等について基準がないものは、その時々の状況で判断をする。

医療・介護職員
その家族支援について

石部 新型コロナの感染拡大による医療や介護現場の支援は。また労働者やその家族の行動制限などの対策は。

健康福祉部長 コロナ対策に必要な経費は原則国が負担するが、市へ配分された交付金等の活用により、医療機関等からの要望・要請

に対して助成をする。感染不安のある方は、市内の2か所の薬局で無料検査ができる。

治水とダムの放流について

石部 30年災害のあと、減災対策協議会の年2回の会議だけではなく、ダム管理者の中国電力と直接対話をすべきではないか。

政策監 協議会では大規模災害に備え隣接自治体と国、ダム管理者で水防意識社会を目指し、市として必要な意見提言を行つている。

石部 協定には、建設費に税金投入で堰堤の約3割は県民のモノであると記述がある。高梁市にあるダムであり、災害時にはダム放流や市民の避難の状況を直接意見交換ができるようすべし。

副市長 市としての意見は県や国に伝え、その思いを中国電力に伝えていきたい。

落合雨水ポンプ場の整備に向けての検討を

落合雨水ポンプ場と防災について

副市長 排出口は高梁川で現在ある樋門を使用する。

森 増水時にもスムーズに排出できるかと考へていて、それを期待している。

副市長 気象条件によるので絶対とは言えないが我々はそういうことを期待している。

森 落合第一低区にある樋門の建設年度はどれも古く（昭和49年製）増水時における操作などを心配している。新しい樋門に変える考えはあるのか。

副市長 それぞれの樋門は毎年動作確認や点検を行つており、故障なり修繕が必要な箇所は隨時修繕を行つ。適切な運用管理に努めている。古いからといってむやみやたらに更新するといった考えは持ち合わせていない。

森 第一低区にある排水路は水路幅などに問題を感じる。ポンプ場に併せて整備できないか。

副市長 30年7月豪雨災害後も現在の排水路で高梁川、成羽川による排水は滞りなく排水できていると認識している。

森 落合雨水ポンプ場の排出口は高梁川なのか、そして現在ある樋門を使って排出するのか。

森 和之 議員



防護柵設置補助金 待ったなし！

三村 靖行 議員



空港吹屋直行バスについて

**建設工事に関する事業
要望書への対応について**

三村 吹屋直行バスの実証運行の現状は、また飛行機、JR、バス等の移動手段と、高梁国際ホテルやラフオーレ吹屋など、宿泊施設とのセットプランの作成やPRが必要ではないか。

産業経済部長 備北バスが毎週末の3日間を運行している。乗車目標1日5人に対し、6・2人である。旅行会社は、直行プランの周知を図っている。羽田空港や大阪駅では動画掲示板でPRしている。

三村 今後の本格運行の課題は。

産業経済部長 バスによる実証運行が行われているが、あらゆる交通手段を模索し検証する。

有害鳥獣害対策補助金について

三村 野猪被害が出たら、その日のうちに防護柵の設置が必要になる。柵の設置後の補助金申請は認められないため困っている。

副市長 簡素化とスピード感をもって対応し、申請者の納得がいただけるよう努力していく。

公共施設等管理計画について

伊藤 計画策定から5年が経過したが取組みの成果は。

総務部長 8施設の減少により、国勢人口を用いた平均的な建物延床面積の過剰率は4%から3%と

5%改善し、順調に推移している。

伊藤 今後の課題は。

市長 地域密着型の施設についても「議論を頂かないといけない。

伊藤 新施設建設の適正規模に関する説明が不足していない。

市長 必要だろうと認識している。

高梁プロモーション部 (仮称)について

伊藤 市職員全体でまず盛り上げるべきではないのか。

市長 高梁市のためにとその決意をもつて入庁してくれている職員ばかりなので、もう一度その意識を振るい起して取り組みたい。

子どもへの投資は将来の高梁の根幹を創造する力

伊藤 泰樹 議員



教育について

伊藤 英語教育において、ICTを活用してより言語活動を深める取組みはできないか。

教育長 デジタル教科書の活用でネイティブな発音に触れ、自分のペースに合わせた学習ができる、動画撮影機能で比較や確認ができる。また、オンラインでは外国や市内外と通信し、互いに刺激が得られている。この3つをより充実させたい。

伊藤 5%改善し、順調に推移している。

伊藤 新施設建設の適正規模に関する説明が不足していない。

市長 必要だろうと認識している。

森上 昌生 議員



高梁市の野良猫対策は

野良猫対策のその後の経過はどうなっているのか

森上 先日、野良猫の仔猫がいるがどうすればいいのかと言った問い合わせがあった。以前から市に對して野良猫対策の支援をお願いしているが、未だに具体的な支援の回答はない。事が起これば市民ボランティアに頼るというのはいかがなものか。3月定例会でTNR活動に対する支援を要望したのだが、その後どのような検討をしたのかお尋ねしたい。

市民生活部長 3月定例会で答弁したが、市としては県の支援が得られる地域猫活動を推奨している。また、他都市での事例の研究もしている。

森上 県の支援を利用してほしいというが、県の支援は簡単には得

られない。県の支援が得られるよう市も考えてほしいと言つているが、真剣に検討してほしい。そこで、3月定例会で女優の川上麻衣子さんの活動に関する質問で市長が答弁しかけた様子だったが、答弁を求める。

市長 川上麻衣子さんは「ねことランティア」に頼るといふのはいかがなものか。3月定例会でTNR活動に対する支援を要望したのだが、その後どのような検討をしたのかお尋ねしたい。

市民生活部長 3月定例会で答弁したが、市としては県の支援が得られる地域猫活動を推奨している。また、他都市での事例の研究もしている。

森上 県の支援を利用してほしいというが、県の支援は簡単には得

石田 芳生 議員

市長・管理職は率先垂範して
職務に当たるべき

旧吹屋小学校の
指定管理について

石田 議会に説明する際に、指定管理の提案について十分確認できていたのか。

産業経済部長 指定管理者からはいろいろと協議をしたと伺っている。

石田 施策に予算が適正に使われてこない」とや、きちんと関係者の合意を取り付けたうえでやつていいことが議員にも理解できるようにしてもらいたいが、どう考えているのか。

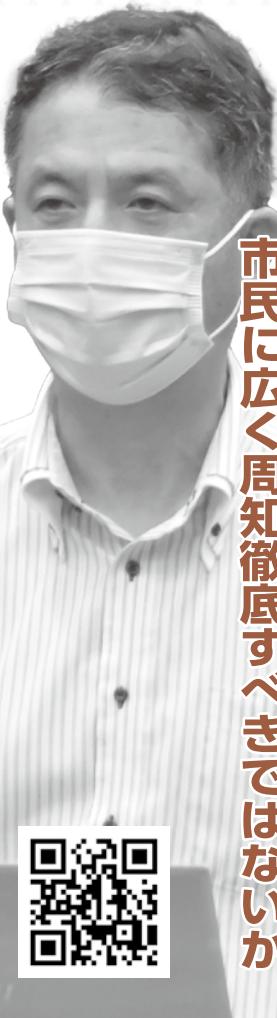
副市長 公務員として地方自治法を順守するのが基本である。いろいろな経済人にもご理解をいただきながら、本市にとってより良い方向で進めていく。

石田 管理職研修の内容は。
総務部長 粘り強く課題に向き合つて解決に導いていくリーダーシップや、所属長として組織でそれを目指している。

石田 リーダーとなる管理職が率先垂範するからこそ職員がついてくる。市長はどう考えているのか。

市長 市長が描く市の在り方について職員と共有することが大切である。職員に私の背中をしっかりと見せていくことを常に念頭に置きながら、今まで以上に努めています。

防災意識を高める情報を 市民に広く周知徹底すべきではないか



川上 博司 議員



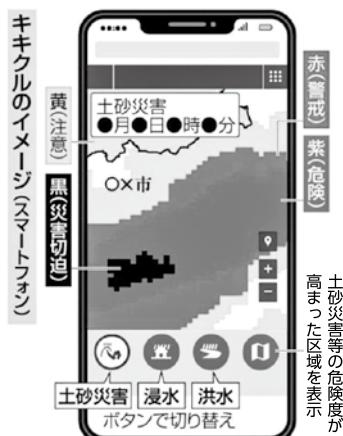
防災・減災対策について

川上 市民の防災意識を高めるきっかけとなるように、LINEなどのSNSを活用し、防災情報をわかりやすく発信していくべきではないか。

政策監 市民への広報・周知については広報紙、ホームページ、行政放送でお伝えしているが、SNSについては、それぞれの特性を踏まえつつ情報発信に活用していくたい。

川上 防災基本条例を制定すべきではないか。

政策監 災害対策基本法に基づいた地域防災計画を策定して防災対策を行っているので、今のところ防災基本条例を制定することは考えていない。



キクルのイメージ(スマートフォン)

財政計画について

川上 中長期的な財政計画を作成し、公表していくべきではないか。

総務部長 中長期的な財政見通しは5年ごとに公表していたが、今後は厳しい財政状況に鑑み、経済情勢の変動や災害の発生等大きな変更点を捉えて議会での説明、ホームページでの公表を行っていきたい。

政策監 地域住民から何度も相談があり、そのたびに現地調査を行っている。家畜排せつ物法等に基づき、破産管財人・県に対して適切な処理を求めていく。

新消防庁舎の建設について

金尾 ZEB化の適用を問う。

消防長 基本設計で、建物全体の断熱、太陽光発電、LEDなどで、エネルギー消費の低減を図っていく。ZEB Ready (CO₂約50%削減)にはなると考えている。

金尾 これからの人口規模・財政規模に見合った庁舎建設になつてないのか。

金尾 肥料・飼料・燃料費等の必要経費が高騰している。政府は、地方創生臨時交付金の上乗せを検討している。農業関連に重点を置くことが必要と考えるが。

総務部長 8月15日に、岸田首相が物価・賃金・生活総合対策本部で、6000億円の交付金の増額を決定した。詳細はまだ不明だが、確認していく。

環境汚染について市民の声に耳を傾けるべき



金尾 恭士 議員



川上町仁賀地域の旧農業施設による環境汚染について

金尾 雨が降るたびに、仁賀地域を流れる大谷川に、旧農業施設が原因の污水が混入し、濁流が下流に流出している。市としての今後の環境対策を問う。

政策監 地域住民から何度も相談があり、そのたびに現地調査を行っている。家畜排せつ物法等に基づき、破産管財人・県に対して適切な処理を求めていく。

地方創生臨時交付金について

金尾 6月定例会で議決した地方創生臨時交付金の運輸事業、農業関連支援の申請状況は。

政策監 運輸事業支援申請は、9月9日現在7件、837万円。農業関連支援は0件。

消防長 高梁市は、人口が減少しても、出動件数は横ばい。適切な規模だと考えている。

平松 久幸 議員



地域と一体になつた取り組みで
「空き家情報バンク」登録推進へ

定住対策について

平松 現在、本市の空き家の状況を問う。

市長 平成28～29年

度に行つた実態調査では、市内の空き家は1096棟で、そのうち空き家情報バンクに登録可能な物件は792件であった。空き家情報バンクへの早期の登録、活用に向けて制度の周知を図つていきた

い。
平松 担当職員が現地に出向き、空き家の情報やあせんの移住支援をしている住民グループ（有漢町、宇治町、備中町平川地区）との情報共有ができるのか。

市民生活部長 市では、移住希望



▲移住支援グループとの話し合い(宇治町)

者を支援する移住「コンシェルジュ」を配置している。担当職員も市内各地を訪れ、地域局、地域市民センター、空き家のあせんや移住支援をしている現地のグループと連携しながら、掘り起こしを含めた移住定住対策を推進していく

こととしたが、コロナ禍で

の議員活動量の減少等を踏まえこととしたが、コロナ禍で

ると調査が難しく議論する状況

にない」としました。

そこで議員定数について優先

的に議論することとし、定数を

決定する要素として、類似自治

体の状況や、議員定数と委員

会構成の相関関係などを研究し

ながら、全議員から意見聴取

し議論を進めました。

各議員の意見では、現状維

持が8名、削減が9名、削減

する場合は定数16人が7名、

定数16人あるいは14人が1名、

定数14人が1名となり、議員

定数について特別委員会での採

決には至らず、議員各位の判

議会のあり方検討特別委員会に委ねることとした。

また今年11月に各委員会構

成議員が刷新されることから、議会のあり方検討特別委員会で

は政策提言を行う議会を目指す

し、議会審議における論点を

整理し、政策水準を高めるた

めの手法を調査研究していくこ

とにしています。具体的には、

委員会のあり方、事務事業評

価、政策討論会、政策提言書、

予算財源の詳細な説明資料な

ど、他市での取り組みを参考に

議論を深めます。

報告書を作成しました



▲議員定数に関する報告書

12月の定例会スケジュール

12/2	金	本会議（議案の上程）
8	木	本会議（一般質問）
9	金	本会議（一般質問）
12	月	本会議（一般質問）
13	火	本会議（議案質疑）
14	水	委員会
15	木	委員会
16	金	委員会
21	水	本会議（採決）

※12月議会への請願・陳情の締め切りは
11月24日(木)までです。

※日程は変更となる場合があります。正式な日程は決まり次第、ホームページでお知らせいたします。

市議会議員が在宅起訴 されたことについて

10月7日の報道において、銃刀法違反及び火薬類取締法違反罪で川上修一議員が在宅起訴されていたことが判明いたしました。

この事実につきまして、市民の皆様にご心配をおかけしておりますことをお詫び申し上げます。

高梁市議会議長 宮田公人



梁高名錄

おおもと 大本 修 (1925~2008)

鋭く振りぬかれたバットから放たれるホームランは野球の醍醐味です。ホームランを生み出すバットの研究と開発で野球界の発展に寄与した大本 修さんは大正14年（1925）岡山県上房郡上有漢村（現高梁市有漢町）に生まれ、芝浦工業大学を卒業後、マサチューセッツ工科大学客員研究員、NASA客員研究員、芝浦工業大学教授、平成3年（1991）からは学長を務めました。

野球をよなく愛した人物としても知られ、金属バットの開発に取り組み、高校野球などで採用された際には、製品安全協会安全管理委員長として金属バットの安全

基準の認定に関わりました。日本プロ野球機構コミッショナー顧問在任中には木製バット折損事故を防止するため安全基準策定にも尽力していきました。木製バットの素材となるアオダモの資源育成を呼び掛けたのも大本氏の発案で、自然を愛する人柄もうかがえます。平成24年（2012）には生前のバット研究を通して野球界の発展に寄与したこと評価され野球界最高の名誉である野球殿堂（特別表彰）入りを果たしています。有漢スポーツパークでは、大阪桐蔭高校などの名門校が練習試合を行うことも多く、球児の元気な声と大本氏が開発した金属バットの快音が秋空のもと発した金属バットの快音が秋空のもと

英断が奇跡を呼んだ
今号の表紙
成羽中学校修学旅行

「どうぞよろしく議会だより」
委員長を拝命して2年、
副委員長や委員の方々のお
力をお借りしながら編集に
取り組み8号目。どの記事
を、「どのような言い回しや
表現で取り上げれば、市民
の方に議会活動に興味を
持つていただき、正しく理
解して頂けるのか、未だ悩
んでいるのが現状です。こ
の委員会にはもう一つ大き
な仕事「議会報告会」があ
りました。コロナ禍を理由
にしても、一度の開催もで
きなかつたことは、申し訳
なく思います。次号からは
新しい体制で取り組みが始
まります。今後とも進化し
続ける議会だよりに期待し
て頂ければ幸いです。

編 集

議会広報公聴特別委員会 委員長 伊藤泰樹
副委員長 森 和之 委員 員 石部 誠
委員 員 石田芳生 员 金尾恭士
委員 員 新倉淳 员 平松久幸

今後とも進化し
云だよりに期待し
幸いです。

あ
と
か
き